

〈研究主題〉 主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり  
～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて（2年次/2年計画）～

今年度は、教師が児童生徒の学びを見取り、見取ったそれぞれの解釈を共有し、「授業づくりのポイント」を基にしながら、チームで主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりに取り組んでいます。今回は、高等部の全校授業研究会について紹介します。

● ● ● 高等部アグリサービス班 作業学習 学園祭に向けて～グリーンガーデン（花壇）の管理～

授業について

前題材で学んだ知識や道具の使い方を活かし、本時はポット上げの活動を通してグループやペアでの作業を行う中で、主体的に発信・協力する場面を多く設定しました。また、自分の役割に責任をもち、仲間や教師と相談しながら問題を解決する経験を増やし、考える力や協働する力を育むことを目指しました。

抽出生徒について

1年生のときは不登校傾向だったが、2年生以降は欠席がほぼなくなり、様々な活動を通して少しずつ自信をつけてきている。まだ、新しいことや苦手なことに対して不安を感じている様子も見られるが、仲間と協力する場面を繰り返し設定したことで、積極的に挑戦する姿が見られるようになってきた。



授業研究会から（見取りと解釈から）

授業者が授業場面で気になった抽出生徒の言動を協議の視点として設定。この視点に沿って青色の付箋紙に「子どもの言動」、ピンクの付箋紙に「解釈」を記入し、2枚の付箋紙を使ったワークショップを行い、「次につながるキーワード」をまとめました。

<p>視点①「受け身ではなく、声を掛け合って取り組んでいた。今後、ステップアップするための場の設定や支援の工夫はどうあればよいか。」</p>	<p>視点②「正しい深さではないポットが複数あったが報告。これでよいと思って報告したのか、曖昧だったが終わったので報告したのか。」</p>
<p>友達に「これって準備する？」</p> <p>不安。活動を覚えていないのではないかな</p> <p>話しやすいグループ。安心が必要か</p> <p>グループの友達に聞いて自分で振り返っていた。</p> <p>目標を意識できていた。しかし、分かっていることでも確認している？不安？</p> <p>友達の後ろについて行く</p> <p>活動が分からないわけではないが、一人で役割を果たす経験が少ないのではないかな？</p> <p>安心できるグループも必要だが、自分でやらなければならない場の設定があればよいのではないかな（必然性）</p>	<p>何度もペンを挿していた</p> <p>思ったよりうまく入らないので、とりあえず挿しているのではないかな</p> <p>友達の作業の様子をちらちら見ていた</p> <p>穴あけの正解が分からない。友達のまねをしていれば大丈夫とされているのではないかな</p> <p>ポットに土を入れた後、スコップをもつてうろうろ</p> <p>土の量を調整することは分かっていたが、適量が分かっているのではないかな？</p>

※各グループのワークショップ用紙からの抜粋

## 「次につながるキーワード」

- 協力の姿の言語化
- 自己理解
- 工程や支援の引き算
- 知識、技術の習得
- グルーピングの工夫
- 自信のある作業でリーダー
- グループ作業と1人で行う作業の組み合わせ



## 【指導助言】 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 進藤 拓歩 氏

### ○作業学習について

作業学習は「働く意欲を培う」ことを目的としている。アグリサービス班だからと言って農業従事者を育てるのではなく、農作業を通じて、働く意欲や基盤を育むものである。また、農作業だからこそ育まれる力もある。鍬や一輪車を使って体を大きく動かす力を養ったりポット上げや種まきといった細かい作業で集中力を育てたりすることも可能である。

アグリサービス班は自然の中での活動のため、天候に左右される難しさもあるが、臨機応変な対応力を養うことができる。また、収穫の喜び、収穫したものを加工して販売する喜びといったことも、農作業ならではの体験だと考える。アグリサービス班に限らず、その作業班だからこそ育まれる力について押さえておくとよい。

### ○本時の授業について

本時の授業では、掲示物や教材が充実しており、生徒たちが安心して作業に取り組める環境が整っていた。先生方は生徒が自分たちで課題を解決させたいという意図をもち、徐々に支援を減らしていく計画としていた。本題材の指導計画における序盤の段階としては、丁寧で効果的な設定だった。この後、先生方の働き掛けをどのように減らしていくかがポイントとなる。

### ○抽出生徒について

Aさんは動き出しが遅れることがあるが、一度動き出すと集中して作業に取り組む姿が見られた。今日は自ら考え行動する姿が目立ち、次のステップに進む姿勢が見られた。全体として、生徒たちが主体的に学びに向かう姿が見られ有意義な授業だった。

## 授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと生徒の変容）

### ○グルーピングの工夫とグループのリーダーとしての役割の設定

→はじめに、芽かきの作業に教師と一緒に取り組み、基礎・基本的な技術を確実に理解・習得させた。その後、芽かき作業の際、A以外は芽かき作業未経験のメンバーで構成し、リーダーに任命した。

グループのメンバーに「分からないことはリーダー（A）に聞く」、Aには「分からないときは先生に聞く」を確認した。グループの仲間はAに相談し、Aは「これは5本あるから3本抜くといいよ」、「小さい芽を抜いて大きいのを残すといいよ」と実演しながら伝える場面が見られた。A自身が分からないときは教師に確認し、解決してから作業に取り組む姿が見られた。



【芽かきの作業でリーダーに】

### ○協力場面の設定と振り返りで具体的な言葉で行動の評価

→「Aさんが～を手伝ってくれて助かっていましたね」、「Aさんが一緒に作業をしてくれたので時間内に目標数が達成できましたね」など、協力した場面を具体的に伝えることで「自分たちがどう協力したか」を実感し、具体的な姿を振り返ることができた。



【追分駅のプランターの回収】